

2021年度も、新型コロナウイルスの感染拡大が爆発的に広がり、当院もその対応に追われることとなった。また、人口減少の影響もあると思われるが、救急患者が減少している状況が続いた。

循環器内科は、2021年度もスタッフが加わることはなく、院長の私だけの体制だったので、心不全などの循環器疾患の入院患者を他の診療科の先生に依頼することとなった。

### 1. 入院

入院患者のデータは、循環器疾患の患者にしぼっての報告とする。

2021年の循環器疾患患者の入院数は95名（CPA例は除く）であった。平均年齢が83±10歳（中央値は86歳）で昨年とほぼ同じであった。

このうち死亡患者は11名で11.6%。死亡患者は、昨年同様すべて85歳以上の超高齢者であった。死亡患者の死因の内訳では、心不全と考えられる方が5例と最も多く、次いで老衰2例、下肢の壊死2例であった。

入院全体の疾患別内訳は、心不全が最も多く、50名であった。心不全症例の平均年齢は84歳だった。その疾患の内訳は、HFPEF+心房細動が21例と4割以上を占めており、以下、HFPEF+洞調律が12例、HFREF+心房細動が9例、HFREF+洞調律が7例であった。やはり心房細動の合併例が約6割と高率となっており、その他、CKDの合併も多くみられた。

心筋梗塞の入院は2名であった。急性期治療の目的で熊本市内の急性期病院へ転送となった急性心筋梗塞の患者が7名だった。なお、CPAOAの患者で虚血性心疾患を強く疑われる内因性心臓死が6名であった。

急性大動脈解離は、CPA1名、入院1名であった。

その他の入院では不整脈に関連した患者が11名、血管疾患が11名だった。意識消失発作を伴うような低血圧の患者が6例であった。

(表1) 入院患者さんの疾患内訳 (例)

急性心筋梗塞（転送を含む）	9
急性大動脈解離（CPAを含む）	2
心不全	50
不整脈	11
狭心症、OMI	3
血管疾患	11
弁膜症（心不全合併を再掲）	21

### 2. 外来

外来では、2021年度も済生会熊本病院心臓血管外科から応援をいただいた。

循環器内科の定期外来患者の多くは生活習慣病の患者である。毎月約800～900人の患者の診療を行った。

外来で定期的にペースメーカーチェックも行っている患者は60数名である。

通院が困難な患者に対しての訪問診療も続けている。訪問リハビリ中の患者の訪問診療も行うことになり毎月20名程度を維持できている。

循環器関連の検査は、新型コロナウイルスの影響で2019年度より減少したものが多いうのだが、2020年度より若干増えた項目もみられている。心電図：4,403件、トレッドミル：29件、ホルター：154件、心エコー：1,298件、負荷心エコー：3件、ABI：123件、下肢血管エコー：205件、頸部血管エコー：166件、ヘッドアップティルトテストが174件あった。（表2）

(表2) (例)

	2021年度	2020年度
心エコー	1,298	1,261
ヘッドアップティルト試験	174	146
トレッドミル	29	33
ホルター	154	108
頸部血管エコー	166	140
下肢血管エコー	205	197
ABI	123	101
心臓CT	13	13
血管CT&MRI	104	106